

シャープ通信

2023年3月 vol.34

「シャープの今」をお届けします。

CEOオフィス 広報担当

2022年度 第3四半期決算を発表

2月7日(火)、当社は堺本社多目的ホールにて、2022年度 第3四半期の決算を発表しました。



代表取締役副社長の沖津さん(右)と 常務執行役員 管理統轄本部長の小坂さん

2022年度 第3四半期累計の売上高は、注力分野であるブランド事業でスマートライフや8Kエコシステムが伸長、エレクトロニックデバイスも増収となり、前年同期を上回りました。営業利益、経常利益、最終利益につきましては、円安の影響があったこと、ディスプレイ事業の不振が続いたことなどから、大幅な減益となったものの、営業利益・経常利益の黒字は確保しました。第3四半期までの実績、足元の事業環境を反映し、業績予想を修正しています。2023年度の黒字化に向け、抜本的な構造改革を進めていることから、今決算では合理的に算出することが可能な営業利益までを開示しました。

ブランド事業(スマートライフ、8Kエコシステム、ICT)の売上高は前年同期比 4.7%増の1兆476億円、デバイス事業(ディスプレイデバイス、エレクトロニックデバイス)は同 0.9%増の9,767億円、全社合計では同 3.9%増の 1兆9,670億円(連結調整含む)となりました。

【各セグメントの概況】

スマートライフの売上高は前年同期比 4.2%増の1,118億円となりました。白物家電は、欧米の調理家電や国内の洗濯機などが大きく売上を伸ばしました。8Kエコシステムは、ビジネスソリューション事業が前年同期比で10%を超える増収となったほか、スマートオフィス事業やインフォメーションディスプレイが欧米を中心に売上を伸ばし、同 3.3%増の 1,538億円となりました。ICTの売上高は、スマートフォンのラインアップ展開や非スマートフォン商材の強化などにより増収となったものの、PC事業は世界的な需要低迷の影響を受け減収となり、同 4.0%減の789億円となりました。ディスプレイデバイスは、車載向けパネルやPC/タブレット向けパネルなどは伸長しましたが、スマートフォン向けパネルが減少し、同 1.8%減の2,178億円となりました。エレクトロニックデバイスの売上高は、顧客の2022年用モデル用デバイスの販売が堅調だったことから、同 17.8%増の1,644億円となりました。

事業環境が急激な変化を続ける中、構造改革と並行して、持続的な成長基盤の構築に向けた事業構造の転換を加速してまいります。

米国のテクノロジー見本市「CES 2023」に出展しました



「CES 2023」に出展した120V型『AQUOS XLED』(受信用チューナー非搭載、参考出展)

当社は、1月5日(木)から1月8日(日)まで、米国ネバダ州ラスベガスで開催された世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2023」に3年ぶりに出展※しました。

商談スペースも設けたシャープブースでは、「CES 2023」に合わせて米国での今春発売を発表した4Kテレビのフラッグシップモデル『AQUOS XLED』や、同じく開発発表を行ったスマートフォン接続型のVR(仮想現実)用ヘッドマウントディスプレイのプロトタイプ(参考展示)など、「New Energy」「Automotive」「AR/VR」「TV」の4つのテーマで展示しました。

ブースには多くの方にご来場いただきました。特に、ヘッドマウントディスプレイ(プロトタイプ)の人气が高く、デモを体験いただいた後に、隣接するコーナーで近接センサーやレンズ、カメラモジュールなど特長デバイスの説明を行いました。今回展示したプロトタイプに使われている主要デバイスは主にシャープグループで手掛けており、小型・軽量・省電力などに加え、VR酔いの低減などにも貢献していることを動画なども交えて説明し、多くの方の関心を集めました。

当社は、「CES 2023」で展示した先進の技術や商品を、グローバルに展開していきます。これからもシャープにぜひご期待ください。

※ CES 2023のメイン会場(Las Vegas Convention Center)とは別の、ウイン・ラスベガス ホテルにて出展しました。

スマートフォン接続型VR用ヘッドマウントディスプレイのプロトタイプを開発



VR用ヘッドマウントディスプレイのプロトタイプ

当社は、約175gの超軽量ボディと高精細映像を実現した、スマートフォン接続型のVR(仮想現実)用ヘッドマウントディスプレイのプロトタイプを開発し、「CES 2023」に参考出展しました。

本プロトタイプは、VR用超軽量ディスプレイや超薄型で明るい接眼用レンズなど当社独自の最先端デバイスの採用や、スマートフォンの開発で培った小型化技術・ノウハウの活用により、約175gの超軽量ボディを実現しました。長時間使用しても疲れにくく、コンパクトに折りたためるので外出先などへの持ち運びにも便利です。ディスプレイは、4K(片眼2K×2)高精細映像と、120Hz駆動によるなめらか表示を実現。リアリティあふれる映像で高い没入感を体験いただけます。

水なし自動調理鍋「ヘルシオ ホットクック」開発グループが 第9回「ものづくり日本大賞」の経済産業大臣賞を受賞



▲西村康稔経済産業大臣(右から2番目)より賞状を授与される

(左から)当社 Smart Appliances & Solutions事業本部 キッチン事業部 調理ソリューション企画開発部
技師 井岡葵、同課長 中村達彦(右)同主任 吉田麻里

当社の水なし自動調理鍋「ヘルシオ ホットクック」の開発グループが、第9回「ものづくり日本大賞」の「Connected Industries—優れた連携」部門において、最高位の経済産業大臣賞を受賞しました。

今回当社は、協調領域におけるデータ共有等を通じて機械、技術、人などさまざまなものをつなげることで、新たな付加価値の創出や課題解決を進めた個人またはグループが表彰される「Connected Industries—優れた連携」部門で受賞。1月23日(月)にザ・プリンス パークタワー東京(東京都港区)で開催された表彰式には、代表として3名が出席しました。

住宅用太陽電池モジュール「BLACKSOLAR ZERO」が 令和4年度「新エネ大賞」の『新エネルギー財団会長賞』を受賞



当社の住宅用太陽電池モジュール「BLACKSOLAR ZERO」が、一般財団法人「新エネルギー財団」が主催する令和4年度「新エネ大賞」(後援:経済産業省)の【商品・サービス部門】において、『新エネルギー財団会長賞』を受賞しました。「新エネ大賞」は、太陽光などの新エネルギーの導入促進を目的に、新エネルギーなどに関する機器・サービスの開発や分散型エネルギーの活用事例について、優れたものを表彰する制度です。

当社は今後も、太陽光発電システムや蓄電池システムの普及に貢献し、クリーンエネルギーのさらなる創出と拡大に貢献してまいります。

お子さまの小さな手のひらに、安心を詰め込んだキッズ向けケータイ「mamorino6」を“au”より発売



「mamorino6」(左から、ミント、ピーチ、ソーダ)

シャープは、お子さまを見守る機能が充実したキッズ向けケータイ「mamorino6」を商品化。KDDI株式会社および沖縄セルラー電話株式会社の“au”から、2月10日に発売しました。

■ 主な特長

1. “au”のmamorinoで初めてカメラを搭載。防犯ブザーのストラップを引くと自動的に撮影した写真を位置情報とともに送信
2. 「+メッセージ」対応で、スタンプや写真を送って楽しくやり取りできる
3. 耐衝撃・防水・防塵に対応。汚れてもハンドソープで洗浄可能

新選組ゆかりの壬生寺で見つけたのは、50年前のシャープの冷蔵庫でした

1973年、当社は「食品と電気を大切にします」をコンセプトに、家庭用で初めて野菜専用室を設けた3ドア冷蔵庫を発表しました。冷蔵庫の愛称は「ニューアラスカ」。このたび、京都市のご販売店、杉本商事がかつて壬生寺に納入した「ニューアラスカ」<SJ-3300X>がまだ保管されていることがわかり、杉本社長のご尽力により当社に寄贈いただけることになりました。寄贈いただいた「ニューアラスカ」は、八尾事業所の食堂に展示されています。



壬生寺貫主の松浦俊昭様

長



(左から)杉本商事の杉本会長、松浦貫主、杉本社

SHARP Blog



★ WEB社内報をご覧ください！！

URL: <https://blog.sharp.co.jp/family/>

または、こちらのQRコードからアクセスしてみてください！！ →

